

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：永島・奈良井]  
TEL：0853-22-6772  
FAX：0853-24-3342

平成28年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害発生情報）

平成28年9月12日  
島根県病害虫防除所

シクラメンえそ斑紋病の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

平成28年8月、県東部の施設栽培のシクラメンにおいて、葉にえそ輪紋、黄化症状を示す株が確認された（図1、2）。症状からウイルスによる病害の疑いがあったため、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センターに診断を依頼したところ、インパチエンスえそ斑点ウイルスによるシクラメンえそ斑紋病であることが判明した。

国内における本ウイルスによる病害は、平成11年に静岡県のパルパナで、シクラメンでは平成12年に秋田県で報告された。このほか、全国27都道県でトルコギキョウ、インパチエンス、ペゴニア等での被害が報告されている。中国地方では、本県以外の4県全てで発生が報告されている。

- 1 病害虫名 シクラメンえそ斑紋病
- 2 病原名 インパチエンスえそ斑点ウイルス  
(*Impatiens necrotic spot virus* : INSV)
- 3 作物名 シクラメン
- 4 発生場所 県東部
- 5 発生生態

1) 病徴

葉ではえそ輪紋、斑紋を生じ、後に黄化、枯死する。花ではえそ斑紋を生じる。これらの病徴は夏の高温期では症状が見えにくくなる。なお、シクラメンに感染するトマト黄化えそウイルスも症状が酷似するため、病徴だけの判別は困難である。



図1 葉のえそ輪紋



図2 葉のえそ輪紋、黄化



図3 ミカンキイロアザミウマ  
(媒介虫)

2) 伝染経路

ミカンキイロアザミウマ（図3）、ヒラズハナアザミウマにより伝搬されるが、特にミカンキイロアザミウマの媒介能力が高い。これらのアザミウマは幼虫の時に本ウイルスを獲得し、成虫がウイルスを伝搬する。ウイルスを保毒後、死亡するまで伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。

本病は種子伝染や土壌伝染は報告されていない。また汁液によって伝染は可能であるが、管理作業により接触伝染する可能性は低いとされている。

### 3) 宿主植物

本ウイルスの宿主範囲は極めて広く、花き類を中心に感染の報告がされている(表1)。

表1. INSVの感染が確認されている主な植物(病害虫情報No.62「横浜植物防疫所発行」より抜粋)

科	植物名	科	植物名
アルストロメリア科	アルストロメリア	シュウカイドウ科	ベゴニア
キク科	キク、ダリア、マリゴ <sup>1)</sup>	ツリフネソウ科	インパチェンス
キョウチクトウ科	ニチニチソウ	ナス科	トマト、トウガラシ、ペチュニア
キンポウゲ科	ラナンキュラス	フウロソウ科	ゼラニウム
ゴマノハグサ科	キンギョソウ	ユキノシタ科	アジサイ
サクラソウ科	シクラメン、プリムラ	リンドウ科	トルコギキョウ
シソ科	サルビア、コリウス		

### 4) 媒介虫(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)

これらのアザミウマは多くの植物に寄生できる。また、花粉を摂食することにより産卵数が増加する。

## 6 防除対策

- 1) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第株ごと抜き取り、ビニール袋で密閉して施設外へ持ち出し、適切に処分する。
- 2) 本ウイルスの媒介虫(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)に対して薬剤防除を行う。その際は、同一系統(表2の注2参照)の農薬の連用を避ける。また、青色粘着トラップを設置するとアザミウマ類の発生状況が把握できる。
- 3) 施設の開口部に防虫ネット(目合い0.6mm以下のネットやタイベック織り込みネットが望ましい)を設置し、施設内へのアザミウマ類の侵入を抑制する。
- 4) 施設内外の不必要な花き類や雑草は、ウイルスの感染源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、除去し適切に処分する。

表2. アザミウマ類に登録のある主な薬剤(平成28年9月現在)

農薬名 <sup>注1)</sup>	使用時期	希釈倍率 ・使用量	使用回数	使用方法	系統 <sup>注2)</sup> (IRACコード)
<b>シクラメン</b>					
トクチオン乳剤	—	1000倍	5回以内	散布	1B
エピセクト水和剤	発生初期	1000倍	5回以内	散布	14
パダンSG水溶剤	発生初期	1500倍	5回以内	散布	14
<b>花き類・観葉植物</b>					
オンコル粒剤5	生育期	6kg/10a	3回以内	株元散布	1A
スミチオン乳剤	—	1000倍	6回以内	散布	1B
オルトラン水和剤	発生初期	1000~1500倍	5回以内	散布	1B
オルトラン粒剤	生育期	3-6kg/10a	5回以内	株元散布	1B
モスピラン顆粒水溶剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	4A
アクタラ顆粒水溶剤	発生初期	1000倍	6回以内	散布	4A
ディアナSC	発生初期	2500~5000倍	2回以内	散布	5
アフーム乳剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	6
エイビット,アグリメック	発生初期	500倍	5回以内	散布	6
カウンター乳剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	15
ハチハチフロアブル	発生初期	1000倍	4回以内	散布	21A

注1: 農薬によっては薬害の懸念があるので、各農薬のラベルに記入されている注意事項を厳守する。

注2: 同じIRACコードは農薬の系統が同一であることを示す。

## 7 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所(農業技術センター病害虫科: 0853-22-6772)に連絡する。